

平成30年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況		教育委員会における自己評価				
平成30年度の具体的活動		評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的 施策	(1) 定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	A	・市長部局の職員及び新規採用職員への研修として傍聴を依頼する。 ・市内小中学校教職員等へ傍聴を拡大する。 ・社会教育委員への傍聴を依頼する。 ・定例教育委員会終了後に傍聴者から感想並びに教育課題についての意見をもらい、必要により意見交換をする。	・校長、教頭、主幹教諭並びに市役所職員の傍聴を行った。 ・市役所の新採職員の傍聴を実施した。 ・傍聴者からは、親の立場での感想や意見を聞いた。	・「働き方改革」の流れの中で、傍聴制の導入を実施することが多忙化を招いているのではという問題点がある。	・定例教育委員会傍聴については、市職員その年度の新採者の研修の一環として取り組む。 ・外郭団体の傍聴者について広報を行い傍聴の拡大を図る。
	(2) 教育委員への迅速な教育情報の提供や会議の招集	A	・教育委員に学校教育・社会教育並びに教育総務に関する情報を年間を通して迅速に提供する。 ・教育委員会会議を確実に実施し、会議の議事録を作成・公表する。	・定例教育委員会時に予算、補正予算の情報及び学校施設の改修状況の情報並びに国県の行動計画を元に社会教育、文化・スポーツ事業の計画を策定し、情報の提供を行った。	・緊急案件に対する教育委員への情報提供や報告について、どのような方法を取るか、また、委員同士の意思の疎通が課題である。	・情報提供の再迅速化に努める。また臨時教育委員会の開催が必要な案件については積極的に取り組む。
	(3) 研修会等への積極的な参加	B	・研修会等への参加をとおして、新教育課題について把握し、教育委員としての専門性の構築を図り、資質と能力の向上に努める。	・市町教育委員会研修会や文部科学省主催の市町村教育委員会研究協議会へ参加し、教育委員としての資質向上に努めた。	・研修会に参加後、委員同士での意見交換会の開催を図り、研究成果の充実を図ることが課題である。	・研究会等で得られた成果の確認を実施して教育委員同士のレベルアップを図る。
	(4) 教育委員としての役割	B	・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自己の考え方や意見・思いを述べ、教育委員会における審議を活性化させるとともに教育長や事務局のチェックを行う。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会を実施して、教育委員一人一人の考えを述べあい相互の理解を深め、地域の抱える課題の把握に努め民意を反映した教育行政の一翼を担う。	・市教育委員会の学校訪問時における、教育委員指導の分野で委員としての考え方や、子を持つ親の立場での考え方をそれぞれが述べることができた。 ・社会教育委員会との懇談会では、教育委員としての考え方をそれぞれが述べることができた。	・社会教育分野の行事等について意識の高揚を図り、教育委員一人一人の考え方を述べあい、相互理解を深めることが課題である。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会の充実をめざす。	・社会教育分野についても自分の考え方や意見を述べるができるように意識改革を図る。 ・社会教育委員に学校教育の行事等の参観の機会の場を数多く設定する。
	(5) 学校等と教育委員会との協働意識の高揚と課題の共有化	A	・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」のより一層の充実を図るため、教育委員自ら、トーク会のグループ(班)に参加し意見を述べる。 ・子ども教育委員会を開催し、子どもの声を反映した教育行政の推進を図る。	・教育委員会単独学校訪問において出前トーク会を実施し、今年度は6校を訪問し意見交換を行った。出席者は学校職員、学校運営協議会委員、PTA会長、母親部長、教育事務所指導主事、教育相談員、早期支援コーディネーター、子ども学校塾指導者、地域コミュニティ会長などで会議後には各教育委員のコメントを述べた。また、地域からの意見を伺い、見えない情報の提供を得ることができた。	・関係団体代表の参加調整が課題であり、主要な協議の内容についても事前に決めておき出席者全員が、教育情報に係る発信ができる体制づくりが必要である。	・事前の日程や議題等を早期に通知する。 ・議題によっては他の部署から協力が得られるように調整を図る。
	(6) 市長部局と教育委員会との関係	A	・学校訪問時の「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で、市長部局の職員等の出席を求め、教育現場の声やトーク会出席者の意見を市の行政に反映させる。 ・市長部局に委任している生涯学習部門において、社会教育委員との懇談会を実施し、地域における社会教育活動等意見交換を行う。	・学校訪問において市議会議員や財政課同行の訪問を行い、学校施設の現状把握に務め今後の対応について行政部局への働きかけの対応に努める予定であったが訪問時のトーク会の議題が行政方面の課題にはならなかった。	・市の行政に反映できるようなトーク会の議題設定が課題である。	・行政当局からのトーク会参加が出来るような議題づくりに取り組む。

<p>評価委員からの指摘事項・意見</p> <p>① (1)の、市職員の教育委員会会議傍聴については、市職員の研修体系への組み込みを進めてゆくことで、定着を図っていただきたい。</p> <p>② (3)で指摘のあった、教育委員の研修参加については、教育委員会の質をさらに良いものとするうえで重要である。ただし、委員構成の多様性を確保しようとするほど、委員の属性や生活リズム等はさまざまになるため、多様性にに応じた研修の企画・実施を期待したい。</p> <p>③ (4)で指摘のあった、教育委員と社会教育委員の交流については、嬉野市の教育を総合的にとらえる意味でも、継続を期待したい。</p> <p>④ (5)および(6)で指摘のあった「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」については、学校現場の声を教育行政等に直接届ける機会となっている</p>	<p>評価結果(段階)</p> <p style="text-align: center;"><b>A</b></p>	<p>指摘を受けての改善点</p> <p>① 定例教育委員会会議の傍聴について、市役所職員については輪番制として、さらに新規採用職員については年間研修の講座として今後も継続する。</p> <p>② 教育委員による委員協議会(勉強会)の教育課題を決めて実施する。また、独自の分野で不断の研鑽に努めるようにする。</p> <p>③ 社会教育委員との懇談会では、多様な教育情報の提供を図り、双方向からの情報提供の拡大に努める。</p> <p>④ 教育委員と学校との協働意識の高揚と課題の共有化を図って、市長部局へのPR活動の充実に努める。</p>	<p>評価4段階</p> <p>A 達成(80%以上)</p> <p>B ほぼ達成(51~79%)</p> <p>C やや不十分(50~21%)</p> <p>D 不十分(20%以下)</p>
---	---	--	--